

ごあいさつ

平素は、阪急電鉄をご利用いただき、誠にありがとうございます。

まず初めに、昨年度に発生させました、宝塚線の運転士による乗務中の携帯電話使用、神戸線西宮車庫における信号無視による車両脱線、宝塚線川西能勢口駅における信号無視によるポイント損傷、そして今年度に入り引き起こした西宮車庫での信号無視によるポイント損傷の計4件の事故・不祥事につきまして、皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを、あらためてお詫び申し上げます。

これらの事故・不祥事を受けて、鉄道事業に関わる社員全員が「すべてはお客様のために すべては安全のために」を心に刻み、一丸となって再発防止と信頼回復に取り組んでおります。なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

この安全報告書は鉄道事業法第19条の4項に則り毎年発行し、当社における安全確保に向けた取り組みをご説明しております。2011年度におきましては、ホーム非常通報装置やホーム内方線タイル設置等のホームにおけるお客様の事故防止対策の推進、ATS改良や車両新造等の安全設備の整備、また、安全を重視する会社風土の基礎となる社員間のコミュニケーションの充実、災害や緊急事態発生時におけるお客様の避難誘導訓練やコンプライアンスを充実させるための社員教育等、多面的に取り組んでまいりました。

当社では2006年度に安全管理規程を定めて、運輸安全マネジメントを導入し、日々、PDCA(P:計画、D:行動、C:確認、A:改善)サイクルを有効に機能させることで、鉄道輸送の安全確保とより一層の向上に努めてまいりました。また、過去に発生した不祥事を教訓に、コンプライアンスの充実にも取り組み、その再発防止に努めてまいりました。しかし、昨年度から引き続き発生させました事故・不祥事を受け、PDCAサイクルをさらに緻密に精度を上げて実行するため、2012年度からはPDCAサイクルにおける計画策定前の現状把握と何をすべきかを考える「See-Think」を充実させ、より安全で安心してご利用いただける阪急電鉄を目指して、一層真摯に取り組んでまいり所存でございます。

ぜひとも本報告書をご高覧いただき、皆様からの忌憚のないご意見、ご指導をお願いいたしますとともに、引き続きのご愛顧を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

阪急電鉄株式会社 取締役社長

角 和夫

